

# 提携米通信

2013年8月号・黒瀬農舎

## 7月の入候も絶好調・稲はすこぶる順調



日曜公開にご参加の皆さんがマガモを激励  
黒瀬農舎無農薬あきたこまち農場にて

先月に引き続き半地秋日は7月も稲にとって理想的な入候で経過しました。

苗作りの期間中は最悪の入候でしたが、日植以降の2ヶ月は素晴らしいお入候で、我が家だけでなく近隣の日植も今のところ素晴らしい出来映えです。

しかし、まだ道半ば。予断は禁物です。

今の時期は、芒の口で、そろそろ穂がでかかける頃です。

これから穂が出終わるお盆過ぎまでに低温に見舞われる

と、花粉形成や受粉が十分出来ない「下稔（フネン）現象」となる「障害型冷害」が起こります。

また、その後の稲が稔る時期に晴入が少ないと、充実した米粒にならなかったり、台風被害など、秋の収穫までびっくの難関が続きます。これらのいずれも、自然を相手の仕事では、人智の及ばないものばかりで心配はつきません。

ところで、6月最終の日に開催した「日曜公開と日神ブナツアー」は、今回は、毎年秋に植栽してきた厚場日川源流部の下刈り班も編入する予定でした。

ところが、冬の大雪と春先の洪水で、ブナの植栽地に通じる林道が大崩壊しており、この日までに復旧される見込みでしたが、復旧困難が確定しました。

このため、直前に急遽中止を決定。下刈り希望の方には参加を取り止めて頂くというアクシデントがありました。

参加下さった方々は、初日は全員マガモの活躍ぶりに感激下さるなど黒瀬農舎のお米作りをくまなくご覧頂きました。

夜は、スローフード運動で付き合っているムッシュ鈴木氏がボランティアでロッジへのお出張料理制作を申し出て下さって、マダイ、ヒラメなど地産身産で獲れた食材でイタリアンの素敵な晩餐会が出来ました。

2日目は、高齢者がいらっしやっただので東部日神の十二湖のブナ林を散策しました。このイベントに限らず、家族旅行などではどうぞ無料の我がロッジをご利用下さい。（ご利用の際はHPで「ロッジ利用の控」を訪問下さい。）

## 提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

### 黒瀬 正・友基

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



E-mail: [akita@kurose.com](mailto:akita@kurose.com) Web:

提携米 黒瀬農舎

検索

☆暑い時期に  
お米の保管にご注意の  
上余り気味の時はパス  
や減量の連絡をどうぞ  
遠慮なくお願いします。

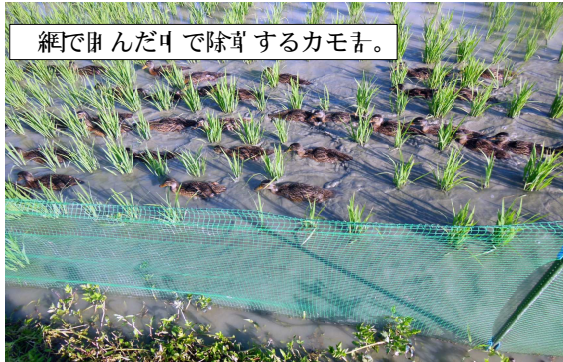
メールフォームやパソコン/携帯のメールでご連絡頂いている方へ

黒瀬農舎からの返信メールが自動的に迷惑メールフォルダに分類されていることがあるようです。返信のメールが届かない場合は迷惑メールフォルダの確認やメールの設定をご確認下さい。

## マガモたちは期待以上に頑張ってくれました。

田い網などのカモを餌う種々の資材を、有機仲間から譲って頂けることになり今年初挑戦のマガモ活月の草対策。

除草作業に来てくれるパートの女性が高齢化して人手不足になり、休っていたため、初めてのカモ導入だというのに1200羽と大量導入しました。



写真のように、日畝の周りを高さ1メートル程度の網で囲んで放鳥しています。

網で囲んでいるとは云っても、地畝との隙間に首を突っ込み、1羽が脱走すると、20~30羽の群れは、後に続き、そのまた、次の群れも脱走する事故が頻発です。

このため、朝夕日畝の見回りを欠かせませんが、100羽近くが脱走しているのを見付けると、最初の間は大あわてでした。

でも10日も付き合くと「脱走してもそ

んなに慌てることはない。」と感じるようになりました。

マガモは、脅さねば、鶏のようにバタバタ走り回ることはなく、映画などでの田畠のアヒル同様に、群になってワイワイガヤガヤ動くだけで、落ち着いて誘導すれば、元の日畝に戻すことは家外易しいことが判りました。

概ね150羽四方の1畝面に250~300羽を放鳥していますが、写真のように一角に餌場を設けています。

カモは、十分に餌を与えると、日畝に田を動き回らないため、餌は毎朝、腹七分目程度の補給とします。

しかし、給餌を求めて、人のいるところや、餌場付近にたむろすることが多く、150羽向こうの畦にカモを行かせるため、人が時々畦を巡回する必要があるようです。



来年は、消費者の皆さんの中で、時間に余裕のある方がいらしたら、我がロッジに逗留して、カモのお守り役をお願いしたいと思っています。

仕事は、朝一畝の餌やりと、脱走見張り、脱走した場合の誘導收容、餌場の対角の畦にサンベットの置いて本でも読んで頂くこと。そうするとカモはそちらに移動して除草がくまなく出来る。また、外敵であるカラスなどにカモが襲われない。

体力も熟練度もほとんど要求されない仕事ですが、ロッジから日畝へ通うための自動車免許があることが条件となります。動物は餌っていると愛情が湧き実に可愛いものですよ。



6月始めに放鳥したマガモは7月16日に集め、山形の購入先に引き取って頂きました。

このカモは11月末まで肥育され、カモ鍋用に使われるそうです。

導入した1200羽のカモは、田畠時には500羽ほどに減っていました。

その原因は、カラス、トビ、タカ、イタチなどに毎日10羽ほどずつ襲われたことが中心です。

また、カモは放鳥前のヒナの時に、飛び立たないように、翼の腰を折る措置がなされていますが、大きくなるとこれが治癒して、大空に飛び立ったものも1~2割はあって減ったようです。